

復刻版



国民精神総動員朝鮮聯盟機関誌「一九三九〜一九四〇年刊」
 全4巻◆別冊「解題―宮田節子」

総動員

朝鮮における皇民化・内鮮一体を
 促進し、総督府の文化統治政策の
 一翼を担った機関誌！

日本植民地文化運動資料 8

緑蔭書房

復刻版『総動員』刊行の辞

一九三七年の日中全面戦争の開始を大きな契機として、日本は物心両面にわたる国家総力戦体制の準備を始めた。同年の九月、「日本精神の昂揚、拳国一致、盡忠報国」等を標榜して国民精神総動員聯盟が創設された。総力戦に備えた国民的な教化運動が始まった。さらに総力戦の「拳国一致」体制を日本植民地下朝鮮、台湾（の民衆）まで拡大し、物心両面にわたる内外一体化をはかっていった。その主たる目的は総力戦の担い手としての兵員や労働力の給源を拡大し確保することにあつた。そのためには、植民地下民衆に「帝国臣民」としての自覚を促し、日本への同化を進めることを急務とした。日本のこの時期の同化政策を象徴するものが皇民化政策であつた。台湾では日中戦争開始後、大東亜共栄圏構想のもと南進基地として軍事上、経済上の重要性が増大すると同時に皇民化の強化がさげばれ、皇民奉公会が結成（一九四二）される。

創刊の言葉

総動員 創刊 號

東亞の天地だけではなく今や歐洲の天地にも暗雲低迷し何時狂瀾怒濤化するか測り難い時、我々は國民精神の昂揚の必要を益々痛感する。國民精神とは取りも直さず日本精神であり、全國民が一人も残らず日本精神を發揚し之を實生活に活かして時局に對處するのが、國民精神總動員の重大眼目である。各人が夫々の立場に於て皇國臣民として最善を盡せば其處に國民精神の「總動員」は自ら成るであらう。けれども此の非常時に於て皇民として生きることは事容易に見えて決して安易なるものではない。百萬の同胞が大陸で日夜君國の爲に勇戦奮闘してゐる時、銃後の我々も朝夕異常なる努力を生活の上に沸はなければならぬ。殊に東亞に新秩序を建設し、新經濟、新文化を創成して四海の人々を導く八紘一字の重大使命を擔つてゐる我々に於てをやである。全國民は復古即維新の精神に則り新たなる覺悟と決意を以て飛躍を遂げなければならぬ。半島も皇國の一部として日本の使命達成に密與貢獻する所がなければならぬ。「總動員」は半島官民の異常なる決意を象徴し表明するものでなければならぬであらう。

「日本植民地文化運動資料」関係年譜

- 明治39年 南滿洲鉄道株式会社創立
- 明治40年 滿鉄調査部に図書室設置（後の大連図書館）
- 明治43年 韓国併合
 - 奉天、長春など八ヶ所に図書閲覧場設置
- 大正3年 第一次世界大戦勃発
- 大正5年 南滿洲司書会成立、「南滿洲司書会雑誌」創刊
- 大正7年 大連図書館創立
- 大正8年 朝鮮三一運動
- 大正9年 奉天簡易図書館を本社直営とし、奉天図書館に改称
 - 大正11年 衛藤利夫、奉天図書館長に就任
 - 大正12年 哈爾濱図書館設立
 - 朝鮮總督府図書館創立
 - 大正14年 「書香」創刊
 - 大正15年 柿沼介、大連図書館長に就任
 - 昭和3年 張作霖爆殺
 - 昭和4年 滿鉄図書館業務研究会開始
 - 「書香」復刊→19年休刊
 - 昭和5年 滿洲事変
 - 上海自然科学研究所設立
 - 昭和7年 滿洲国建国
 - 滿洲国協和会（のち「滿洲帝国協和会」）設立
 - 昭和10年 朝鮮總督府図書館報「文獻報國」創刊→19年廃刊
 - 昭和11年 奉天図書館「収書月報」創刊→18年休刊
 - 昭和12年 「中国文化情報」創刊→16年終刊
 - 日中戦争始まる（7月）
 - 滿鉄附屬地の行政権を滿洲国に移讓
 - 「図書館新報」第2次「創刊、17号より「滿洲讀書新報」と改題
 - 國民精神總動員朝鮮聯盟創設
 - 大調査部体制となる
 - 昭和14年 「協和運動」創刊→20年終刊
 - 昭和13年 哈爾濱図書館「北窗」創刊→19年休刊
 - 「總動員」創刊→15年11月（第2巻第11号）より「國民総力」と改題され20年終刊
 - 昭和16年 滿洲国図書館協会発足
 - 昭和17年 滿鉄調査部事件
 - 昭和20年 日本敗戦

一方、朝鮮では、総督府が朝鮮半島を「帝国の大陸政策の基地」として位置づけ、国家総力戦に朝鮮の人と物を総動員するために、その補助機関として、一九三八年六月、国民精神総動員朝鮮聯盟(後、国民総力朝鮮聯盟に改組)が創設された。全国に教化網をめぐらし、内鮮一体のもと国民精神日本精神を発揚し、朝鮮人の社会生活全般に及ぼし、「皇国臣民」化をはかっていった。皇民化運動の「実践要目」には、日本語教育、創氏改名、日の丸の掲揚、神社参拝奨励等が掲げられた。こうした皇民化政策の実践を背景に、徴兵制の施行があり、朝鮮人皇軍兵士の創出があった。国民精神総動員朝鮮聯盟の機関誌『総動員』(後、『国民総力』に改題)は、聯盟員相互の意思疎通をはかり、教化運動の徹底を期すために、一九三九年六月、発刊された。本誌は、戦時下の朝鮮における皇民化政策の具体的施策と実態を知る基本資料であり、さらに日本の戦時動員政策の全体像の解明にも必須の資料である。

一九九六年六月

緑蔭書房

主要な特集・記事目録一覽

〈特輯〉

非常時国民生活改善問題特輯(1巻3号)

早害対策特輯(1巻4号)

陸軍兵特別志願者特輯(1巻5号)

食糧問題特輯(1巻6号)

燃料問題特輯(1巻7号)

皇起二六百年紀元節奉祝記念(2巻2号)

学校と精勤特輯(2巻5号)

宗教と精勤特輯(2巻6号)

事変三周年記念特輯(2巻7号)

家庭生活と精勤特輯(2巻8号)

戦時国民生活体制確立特輯(2巻9号)

始政三十年記念特輯(2巻10号)

新体制特輯(2巻11号)

〈連載記事〉

聯盟彙報(毎号)

婦人教養読本(三回)

文芸(毎号)

氏設定に関する手続(三回)

時局展望(毎号)

日露戦争の世界史的意義(二回)

上代文学に現れた国民思想(二回)

〈主要記事〉

朝鮮聯盟は今まで何をやって来たか〈聯盟の歴史〉(1巻1号)

朝鮮人に内地式姓を用ひしむることに就て(1巻3号)

朝鮮総督府中堅青年修練所要綱(1巻5号)

「氏」制度の創設に就て(1巻7号)

朝鮮文化の将来(2巻1号)

戦時体制下の半島経済の道路(2巻1号)

国家総動員に基づく労務関係法令解説(2巻3号)

上海に於ける半島同胞の活動情報(2巻4号)

精勤忠北聯盟の活動状況(2巻5号)

精勤全北聯盟の活動(2巻6号)

精勤全北聯盟の活動(2巻4号)

精勤全北聯盟の活動(2巻4号)

戦時国民生活体制確立に関する総督府通牒(2巻7号)

外国語使用抑制問題座談会(2巻10号)

「朝鮮の新体制を語る」座談会(2巻12号)

我国の国土計画と国防国家体制の重要支柱(2巻12号)



★ 日の發出制體新 ★

— 日 六 十 月 十 —

(第2巻第11号の口絵より)

戦時植民地政策の実態を知る資料

海野福寿 (明治大学教授)

国民精神総動員朝鮮連盟の機関誌『総動員』復刻版が刊行される。一九三八年七月発足のこの組織は、「総督施政の輔翼機関」として各地方末端に至る愛国班を結成し、行政機構と表裏一体となって戦時下朝鮮人の生活から「精神」まで完全統制した。三九年二月現在の愛国班教三三万余り、班員数四七九万余り(三九年八月号)、同年十月の『総動員』の普及部数は一万四千部余り(三九年十一月号)だから、主に指導者層にこの機関誌を読ませたのであろう。

『総動員』は、朝鮮総督、連盟役員らの訓示をはじめ担当官の政策解説などを掲載している。たとえば創氏改名の制令は三九年十一月十日公布だが、それより三カ月も前の八月号に総督府囑託奥山仙三が「朝鮮人に内地式姓を用ひしむることに就いて」を書き、創氏の「内鮮一体」の歴史的意義を強調した。周到な下ごしらえと言えよう。

一例にすぎないが、このように戦時植民地政策の実態を『総動員』にのぞき見ることができる。皇民化政策研究の第一人者である宮田節子氏の的確な資料解説が読者を研究に導いてくれることだろう。

(第1巻第7号より)

(第1巻第6号より)

[84]



創氏に就いて

總督府法務局

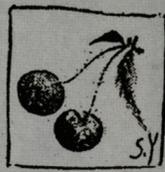
本年二月十一日紀元の日を期して實施を見た氏名制度は内鮮一體の深化徹底に精進しつつあるが、牛馬民衆から非常な歓迎を受け氏名届出数は五月十五日當局受領報告に依れば別表の如く四月三十日現在に於て總數一五五、八四三月に達して居る。勿論全鮮約四百三十萬の總戸數に較べると、未だ非常に多いと謂へないが、届出件數が漸次過半の一途を辿つて居り且下手續中の者が多數ある状況であるから氏名の届出は八月十日の期後迄には相當の數に上るものと思はれる。

本制度は申す迄もなく將來牛馬民衆が悉く形共共に國民臣民と爲り内鮮渾然一體と爲る日を到来せしむべき大理想の下に牛馬民衆に對し内地人式氏を用ひ得る途を拓きを用ふる者をして日本精神の修養に資し之を導得せしめること、即ち形式を備へて實質を盛へ形入りつて心を盛へ以て形容共一如に歸せしめることを目的として居るのである。従て本制度は現時周下國民總動員體制の強化徹底上至大の關係を有することは言を俵ない所である。此の本制度制定の趣旨は漸次社會各層に周知されて來た様に思はれるが仍一部には未だ認識不十分な人々も居る様で

あるから此の際之等の人々には身近な人々からよ、説いて其の認識を徹底せしむることが必要であり、それが國民相互の道であると思ふ。尙本制度の趣旨を理解し居り乍ら勇勇届出を躊躇して居る向もある様であるが其の原因と思はれる二、三に付て所見を述べると

一 所謂姓名判断の要説に述べられて徒に右顧左眈し空しく日を過して居る人が尠くない様である。殊に折角自分の最良と考へて作つた氏名も所謂姓名判断者の判断に依り色々とな非難せられ果ては甲判断者と乙判断者とで其の所説を異にする結果遂に其の據る所に遂に多額の鑑定料を失つたのみで未だに氏名確定に至らざる向もある様である。而も名の變更申請手数料を爲しながら此の姓名判断の爲には多額の料金を支拂つて居る様である。是は現代の文明國人として殊に東亞新秩序建設の聖業に參與し興旺の盟主としての事實を分任すべき牛馬の人々として反省して見る必要があると思ふ。申す迄もなく氏名は自己の屬する家及び自己を表彰し他家他人と區別する爲用であるから例へば書き易い、讀み易いとして最も親しみの深いと謂ふは自己の最

[85]



鮮展審査員を中心に

「朝鮮と藝術を語る」座談會

皇國精神の昂揚と藝術

藝原 ちよつと御挨拶申し上げます。國民精神總動員朝鮮聯盟も朝鮮に於ける文化の向上といふ使命をもつてをりますので、その關係上今回鮮展を開催するに當つて、東京より審査員各位のお見えの序でに、美術に關する同好者のお集りを願ひ、この座談會を開催し、朝鮮の美術工藝に關する忌憚なき御批評及び將來どういふ方面に我々が努力すべきであるかといふやうなことも御遠慮なく御指示頂きます。朝鮮の文化進歩向上といふ目的に資したいといふ考で本日この催しを致したわけでありませう。大変お忙しい中を

又お疲れのところをおいで願ひまして洵に有難うございます。又審査員以外の各位に於ても、どうぞ時間のある限り充分にお話願つて本會の目的を達するやうにお願ひ致したいと思ひます。簡単ながそれだけ御挨拶を申し上げます。それでこゝに話題として色々難しいことを擧げて置きましたが、これに捉はれる必要は少しもないのでありまして、先づ第一にお伺ひしたいことは、朝鮮の美術、工藝がどういふ傾向を辿つて來てをるか、又如何なる長所と短所を有つてをるかといふことを先に伺ひまして、これ等のことを今後の重要な參考として將來伸びて行く希望をもちたい、かういふ風に考へるわけでありませう。さうして今日にこの座談會のお話の記録は、これを各種の出版物に掲載し、又パンフレット等に致しまして全鮮のこの方面の志ある者に見てもらつて、さうして今後の勉強の資料に致したい。朝鮮には御承知のやうに美術學校といふものがあります。その必要はつとに唱へられてをる所でありませうけれども未だその運びになりませぬので、せめてかういふことで將來に對する指針に致したいと考へてをるわけでありませう。

伊原 一番にしゃべつて差出がましいのでありますが、朝鮮美術の長所缺點といふやうな具體的な問題にはいる前に、私

「親日団体」研究の基礎資料

高崎宗司 (津田塾大学教授)

元「慰安婦」などに対する謝罪と補償が関心を集めているが、戦前の日本の悪行は、「慰安婦」制度を作ったり、青年たちを死に追いやったりしたことだけでは、朝鮮人を「自発的」に戦争に協力させる過程で行った「皇国臣民」化教育もまた、それらに劣らぬものであった。その実態がいかなるもので、その影響がどのような形で今も残っているかを私たちは知らなければならぬし、それを知るためには「親日団体」の活動を研究するのが適当であろう。ところで、十指に余る「親日団体」の中でも中心的な役割を果たしたのは、国民精神総動員朝鮮連盟である。理事長・塩原時三郎や作家・李光洙ら「親日派」の文章をたくさん収めている連盟の機関誌『総動員』は、一九九〇年に韓国で一部復刻されたことがあるが、今では求めることも難しくなっている。『総動員』が再び復刻されるのを喜ぶと同時に、その後継誌である『国民総力』や、緑旗連盟の機関誌『緑旗』が続いて復刻されることを期待したい。

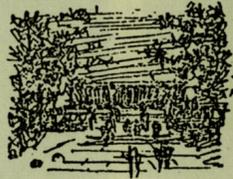
(第2巻第9号より) * 香山光郎は李光洙の「劇氏改名」した姓名

(第2巻第1号より)

【 6 6 】

—(朝鮮文化の將來)—

【 3 8 】



朝鮮文化の將來

半島文化の本流

李 光 洙

一概に朝鮮文化と云つても何を指すのか一寸合點が行かない。速く檀君時代まで遡らぬまでも、三國時代あり、高麗時代あり、李朝時代あり、又同じ李朝時代にしても、その初期と末期とでは、著しく特色を異にして居る。茲に於いて、朝鮮の文化の本流は何んであるかと云ふ問題に逢着する譯である。即ち、或は漢や隋唐の、或は元、明清の支那の文化や、佛教文化の影響を受けつゝも、依然その主體たるところのものを抽出することが出来るとすれば、それが即ち朝鮮文化の本流でなければならぬ。併しながらこれは、多くの角度から研究されて後に始めて、確められるべきであつて、未だ全然未開發の儘と云つても好い位の朝鮮文化史としては、輕々に斷案を下すことは、慎まなくてはならない。併し朝鮮文化の將來に就いて、何か意見を述べることが編輯係より命ぜられた私としては、まづ朝鮮文化の本流に就いて、未熟ながらも、私の所信を開陳せざるを得ない。



内鮮青年に寄す

香 山 光 郎

青年よ、君は内鮮一體の眞義を十分に認識して居られるか。内鮮一體がわが帝國とつて、どれだけ重大な意義をもつかを、眞に認識してゐられるか。内地の青年諸君の中には、なに朝鮮位のものをもと、高を括られるやうな人はないだらうか。半島青年諸君の中には、なるやうになるだらうと、受身のな心持でゐられるやうな者はないだらうか。萬一左様な、心掛けでゐるものがあるとすれば、それこそ由々しき大事である。なんとすれば、内鮮一體は、實にアジア新秩序の基點であるからだ。内鮮一體の眞上がらすして、アジア諸民族の融合を望むことは出来ない。のみならず、今後の國防の見地から見ても、内鮮一體は、實に生命線ともいふべきであるのだ。内鮮兩族が、陛下の軍人として國防線上に於いて一つになつてこそ、帝國の固基は泰山磐石の上に置かれるのだ。内鮮青年諸君は、この點について十分の認識をもつてゐられるのか。

まづ朝鮮青年の立場から見よう。君の一生——假りに今後約三十年間——は内鮮一體の事業のために捧げられなければならない。君の一生からは他のすべての個人のための、乃至家族のための利益や享樂や權利や、要求やを取り除いて、ひたむきに内鮮一體への奉仕を以つて諸君の一生を充たさねばならぬ。今から三十年後に完全なる内鮮一體の業を成就すべく、あらゆる努力、あらゆる犠牲を捧げつくす覺悟をなさねばならぬ。内鮮一體を完成して、半島民衆をして代々皇國國民としての光榮に浴せしめるやう努力すること、諸君の一生は捧げられなくてはならぬ。これこそは青年諸君の神聖なる義務であり、同時に上聖明に應へたてまつり下子孫のために盡く所以であると信ずる。

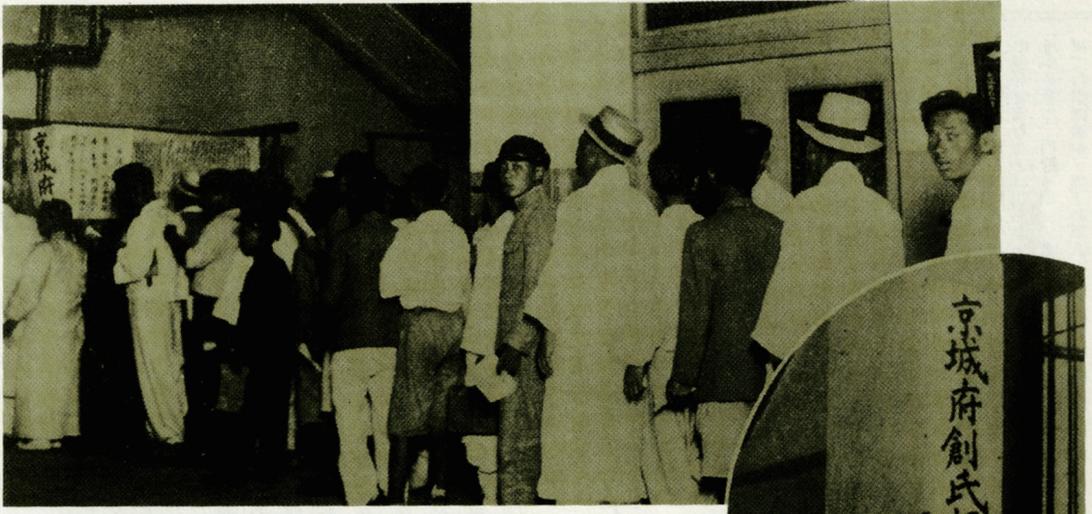
ところが、この事たるや決して半島青年のみによつて果さ

日本の動員政策史研究 にも必要な文献

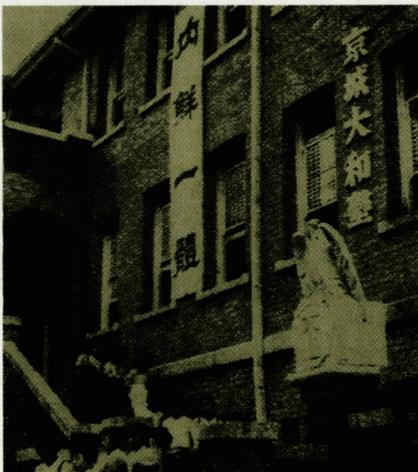
樋口雄一 (朝鮮史研究家)

朝鮮史の研究は進んでいない分野が多いが、『総動員』の刊行され始めた一九三九年から四五年までの期間は、その代表的な時期であろう。朝鮮人農民の朝鮮外への大量移動、その後の日本・朝鮮の米需給の逼迫の原因となった三九年の大旱害、朝鮮内部の統制強化など、その後の朝鮮民衆の生活にも影を落とした時期である。また、朝鮮人民衆から見れば、植民地期間を通じて最も過酷な支配体制下におかれた時代であったといえよう。しかし、この時期についての研究は少ないだけでなく入手できる刊行物も少ない。『総動員』は朝鮮総督府の『調査月報』『朝鮮』『朝鮮行政』といった基礎資料の一つであるが、中でも入手が困難な資料である。朝鮮人のすべては連盟の末端組織・愛国班に組織され、供出、強制貯蓄などに動員された。この時期の朝鮮人動員の一つの重要な側面を語る史料である。また、日本国内の戦時動員とも相関関係が深く、朝鮮における動員政策との関連を検証しなければ日本自体の動員政策の全体像解明はできないであろう。日本史研究にとっても必要な文献である。

▼写真・文とも写真図説「日本の侵略」(大月書店)より転載しました。



創氏届け出風景。一九四〇年二月二日の紀元節(今日の「建国記念の日」)を期して、創氏改名が実施された。創氏改名をしないと、子どもは学校でいじめられたり、進学を拒否されたりした。(一九四〇年・京城)



京城大和塾。大和塾は、思想犯保護事業を目的として作られた保護観察所の外郭団体である。思想犯を転向させるには日本語をおぼえさせることが有効だといふことで、「国語」教室を開いた。

植民地満洲の学術・出版の実相を克明に記録、昭和激動期の文化状況を伝える綜合書評誌／

1 書香

本誌の内容は、大連を含め各満鉄図書館の活動の記録、満洲の出版界の動向、北アジア大陸の諸文化、関東軍の動向に関連した情報、各種の文献目録等多岐にわたる。満鉄図書館史はもとより、満洲史、中国史、軍閥係史、アジア史研究にとって資料の宝庫。

全8巻・別冊1／満鉄大連図書館編
大正14年4月→昭和10年12月 全15冊
解題 稲村徹元 揃定価144,200円

満洲文芸、北方文化に関する貴重な記事・作品、文献・資料の紹介に努めた綜合文化誌／

2 北窓

満洲学芸史研究上、重要な意味を持つ本誌は、満鉄傘下の図書館報の枠を超え、在満邦人の知的要求に応えた高級でモダンな綜合文化雑誌であった。その内容は歴史・民俗・芸術・教育・出版・書評など、満洲における文化事業の全般に及び及ぶ。

全5巻・別冊1／満鉄哈爾濱図書館編
昭和14年5月→昭和19年3月 全26冊
解題 西原和海 揃定価602,400円

満洲史、清朝史、対露交渉史など質の高い研究論文を多数所収。東北アジア史研究に必須／

3 收書月報

本誌の特色と内容は、何よりも館長衛藤利夫の個性と情熱によって収集された満蒙・シベリア等辺境研究図書に表われている。質量ともに充実したこれら資料を駆使した多数の研究論文・書籍・雑誌解題や紹介は、東北アジア史研究に必須の基礎資料。

全10巻・別冊1／滿鉄奉天図書館編
昭和11年2月→昭和18年10月 全91冊
解題 小黒浩吉 揃定価135,000円

満洲文化の向上を企図して刊行した唯一の読書雑誌／

4 満洲讀書新報

本誌は満洲における読書文化の発展に貢献することを使命とし、満洲の文化人に発信・寄稿の場を広く提供した。その紙面は満洲の出版界・読書界・図書館界の動向はもとより、随筆、書評、書誌、書論、古本趣味、図書紹介等極めて多彩で、興味は尽きない。

全2巻・別冊1／満洲讀書同好会編
昭和11年1月→昭和20年4月 全95冊
解題 西原和海 揃定価41,200円

日本植民地最大にして戦前では日本最大の図書館報。待望の完全復刻版／

5 文獻報國

本誌は、日本植民地最大の社会教育施設の機関誌として、また文献保存及び重要社会政策であった民衆の教化・皇民化を目的として大きな役割を担った。その紙面からは随所に植民地政策が読みとれる。「侵略と文化」を考える上で欠かせない原資料である。

全12巻・別冊1／朝鮮總督府図書館編
昭和10年10月→昭和12月 全102冊
解題 藤田豊 揃定価247,200円

日中戦争期の中国研究に欠けていた学術・文化史的側面の資料を埋める貴重な記録／

6 中國文化情報

本誌は日中戦争下の日本の对中国文化活動の状況、蒋介石重慶政権下・日本の傀儡政権下の教育動向、社会科学の動向や中国文化界の動向を知る貴重な資料を収録。近現代中国の教育史、科学史、日中関係史、植民地研究に不可欠の学術情報誌。

全5巻・別冊1／上海自然科学研究所編
昭和12年5月→昭和16年12月 全31冊
解題 阿部洋 揃定価111,240円

日本帝国主義による「満洲国」支配の実態と「協和会」の全容解明に久しく待たれた第一級史料／

7 協和運動

協和会の活動は満洲国「の国策に沿って、民衆の思想教化を中心に、経済をも含めたあらゆる分野で展開された。そしてこのような協和会の全貌を余すことなく反映しているのが、協和運動である。本誌により、戦時体制下の満洲国をつぶさに見ることが出来る。

全20巻・別冊1／満洲帝国協和会編
昭和14年6月→昭和20年4月 全68冊
解題 風間秀人 揃定価412,000円

朝鮮における皇民化・内鮮一体を促進し、総督府の文化統治政策を担った聯盟の機関誌／

8 總動員

本誌は聯盟員相互の意思疎通を図り、教化運動の徹底を期すために刊行された機関誌。戦時下の朝鮮における皇民化政策の具体的施策と実態を知る基本資料。また、日本の戦時動員政策の全体像の解明にも必須の文献である。

全4巻・別冊1／国民精神總動員朝鮮聯盟編
昭和14年6月→昭和15年12月 全19冊
解題 宮田節子 揃定価74,100円

日本植民地文化運動資料⑧
国民精神総動員朝鮮聯盟編

総動員

全4巻
別冊1

宮田節子 解説(別冊に所収)

A5判・上製クロス装・ケース入・総2,020頁

定価74,160円(本体72,000円)

◆全4巻収録内容

題名	巻数	発行年月日	発行所
総動員 第1巻第1号	第1巻第1号	昭和14年6月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第1巻第2号	第1巻第2号	昭和14年7月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第1巻第3号	第1巻第3号	昭和14年8月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第1巻第4号	第1巻第4号	昭和14年9月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第1巻第5号	第1巻第5号	昭和14年10月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第1巻第6号	第1巻第6号	昭和14年11月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第1巻第7号	第1巻第7号	昭和14年12月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第2巻第1号	第2巻第1号	昭和15年1月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第2巻第2号	第2巻第2号	昭和15年2月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第2巻第3号	第2巻第3号	昭和15年3月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第2巻第4号	第2巻第4号	昭和15年4月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第2巻第5号	第2巻第5号	昭和15年5月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第2巻第6号	第2巻第6号	昭和15年6月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第2巻第7号	第2巻第7号	昭和15年7月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第2巻第8号	第2巻第8号	昭和15年8月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第2巻第9号	第2巻第9号	昭和15年9月	国民精神総動員朝鮮聯盟
総動員 第2巻第10号	第2巻第10号	昭和15年10月	国民精神総動員朝鮮聯盟
国民総力 第2巻第11号	第2巻第11号	昭和15年11月	国民総力朝鮮聯盟
国民総力 第2巻第12号	第2巻第12号	昭和15年12月	国民総力朝鮮聯盟

第一巻

第二巻

第三巻

第四巻

関連図書のご案内

〈京都大学人文科学研究所の共同研究成果報告書〉

近代日本のアジア認識

古屋哲夫編/A5判・上製クロス装/定価18,540円

〈関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料③〉

朝鮮人虐殺に関する知識人の反応

琴葉洞編・解説/全2巻・揃定価41,200円

〈石炭産業内部文書〉

戦時下強制連行極秘資料集

長澤秀編・解説/全4巻・揃定価82,400円 [東日本篇]

〈石炭統制会極秘文書〉

戦時下強制連行資料集

朝鮮人 中国人 漢拿倭僑
長澤秀編・解説/全4巻・揃定価82,400円

〈在日朝鮮人統制と皇民化政策の実態史料〉

増補 協和会関係資料集 全5巻

樋口雄一編・解説/A5判・上製クロス装/揃定価92,700円

戦時下の精動の動向を記録した機関紙全号の完全復刻版

国民精神総動員 全2巻

国民精神総動員中央連盟機関紙/日4判・上製/揃定価67,980円

明治前期の主要新聞15紙に掲載された朝鮮に関する社説を所収

資料新聞社説に見る朝鮮

征韓論と日清戦争 全6巻/別冊1

編集委員 北原スマ子・園部裕之・趙景達・長谷川直子・吉野誠

※別冊に「朝鮮関係社説目録」を付す/揃定価1,540,500円

緑蔭書房

東京都板橋区板橋1-13-1 ☎03(3579)5444

*表示価格は税込です

特約店